様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　５月１７日現在

機関番号：１６１０２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５００９４２
研究課題名（和文）　ワークショップ型教員研修の開発手法の体系化と開発支援ネットワークシステムの構築
研究課題名（英文）Systematization of the methods to develop “Workshop-style teacher training” and formulation of the network-system for the support of the development
研究代表者
村川　雅弘（MURAKAWA MASAHIRO）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：50167681

研究成果の概要（和文）：
１．指導主事や教員、研究者がワークショップ型研修を協同的に開発するためのネットワークシステムを構築した。
２．総合的な学習の時間や小学校外国語活動等に関する研修プログラムを開発し、カリキュラムマネジメント・モデルを元に整理した。
３．ワークショップ型研修を支援するためのマニュアルやパッケージを協同的に開発し，教育センターや学校において試行した。
４．システムに蓄積された知見に新たな情報を付加し，関連書５冊を刊行した。

研究成果の概要（英文）：
1.We formulated a network-system in which supervisors, school teachers and researchers can develop workshop-style training cooperatively.
2.We organized the workshop-style training programs developed for Period for integrated study and Foreign Language Activities at elementary school, in terms of a curriculum management model.
3.We made cooperatively manuals and packages to support workshop-style training, and we tried them at educational centers and schools.
4.Based on the research knowledge accumulated in the current system and additional findings, we published five books on workshop-style training.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,600,000	480,000	2,080,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１１年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：科学教育・教育工学　教育工学
キーワード：ワークショップ，教員研修，ネットワーク，カリキュラムマネジメント，データベース，校内研修

１．研究開始当初の背景

（1）平成 19 年 6 月の学校教育法一部改正では、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と定めている。平成 20 年 3 月の学習指導要領ではこれを受け、各教科において思考力や判断力、言語力等の育成や活用を重視した授業、小学校高学年の外国語活動必修、時数削減の中での総合的な学習の時間の充実等を求めている。改めて、各学校及び各教師に確かな学力と生きる力を育むための授業開発力とカリキュラム開発力が求められている。授業開発やカリキュラム開発をはじめ教育活動実施上の様々な問題解決を図りつつ、「学校力」と「教師力」を高めていく方法としてワークショップ型研修が有効で、独立行政法人教員研修センターをはじめ各都道府県の教育センター等及び学校現場において急速に取り入れ始められている。学会においてもこの数年注目されてきており、例えば日本教育工学会でワークショップに関する研究発表が増え、平成 20 年度は全国大会において自由研究セッションが設けられ、熱心な協議が展開された。

（2）しかし、ワークショップについて議論する共通の枠組みがなく、相互の知見を共有したり活用したりすることが困難な状態にある。どのような手続き・手順でワークショップを開発すればよいのか、その際にどのような関連要因に基づき、どのように構成要素を選択・決定したのかが十分に検討・記述されないままに実践が進められている。諸外国においてもワークショップ開発に関する事例は散見されるものの開発手法について整理されたものは殆ど見ることができない。

（3）カリキュラムマネジメント・モデルは複雑な教育事象を整理する枠組みとして有効である。ワークショップに関してもそのモデルを援用することで議論のための共通の枠組みや言語ができ、伝達可能性が高まる。ワークショップに関しての研究や実践の黎明期に、その共通の枠組み・言語としてカリキュラムマネジメント・モデルをワークショップに援用し、その開発手順や手だて、構成要素や関連要因を整理することは有用である。

２．研究の目的

（1）本研究は、教育センター等での集合研修、学校の校内研修を対象とし、整理枠組みとしてのカリキュラムマネジメント・モデルを基盤に開発手法と事例の整理とそのデータベース化を行うことで、教育関連学会及び学校現場の活性化に寄与することをめざすものである。本研究の目的は、学校現場や教育センター等で実施される教員のためのワークショップ型研修（以下、ワークショップ型研修）の協同的な開発を支援する情報ネットワークシステムを構築することである。具体的には、以下の３つである。①インターネットコラボレーションツールを利用して、ワークショップ型研修を相互に支援しながら開発するための場を構築する。②カリキュラムマネジメント・モデル（田村知子「カリキュラムマネジメントのモデル開発」、2005）を援用し、ワークショップ型研修の開発手法（開発手順や手だて、構成要素、関連要因）を体系化する。③カリキュラムマネジメント・モデルに基づき、ワークショップ型研修の開発手法及びワークショップ事例を整理し、システマティックに整理された形式でデータベース化を行う。

３．研究の方法

（1）システムを運用するためのコラボレーションツールとしてＪＲ四国コミュニケーションウェア社の「コラボノート」を活用する。

（2）研究代表者と研究分担者、研究協力者（教育センターの指導主事及び小・中学校の研修・研究主任）が協同的・継続的にワークショップ型研修を開発するための「ワークショップ開発室」と開発事例の整理・分類、開発手法の体系化及びそれらの蓄積を行うための「ワークショップ資料室」をシステム上に設定し、その中でワークショップ型研修の開発を実施に関する研究協議・情報交換及び関連情報（研修案や研修ツール、成果物など）の蓄積を行う。

（3）研究者は、研究協議や情報交換及び関連情報の分析を通して、ワークショップ型研修の開発手順や手だてを整理し、ワークショップ開発手法の体系化を進める。その際に、田村のカリキュラムマネジメント・モデルを援用する。モデルを基盤に、開発手順や具体的な手だて、構成要素(研修対象や研修目的、研修形態、評価方法など)、要素を決定するための関連要因(学校種や年齢構成、総時間数など)を明示する。

（4）研究協力者は開発・整理された情報を踏まえて改変し、実施・評価を行い、研究者はそれらのデータの分析を通し、ワークショッププランの整理・分類を行う。

４．研究成果

（1）インターネットコラボレーションツール（ＪＲ四国コミュニケーションウェア社の「コラボノート」）を利用して、ワークショ

ップ型研修を相互に支援しながら開発するための場を構築した。研究期間の中で人事異動により若干の交代はあったが、全国各地でワークショップ型の集合研修や校内研修の企画及び実施を担当している指導主事 15 名前後や小学校教諭 10 名前後、中学校教諭 5 名前後、研究者等 4 名の総勢約 35 名が情報交換や研究協議を随時行った。

（2）21 年度は、システムの中に協同的にワークショップ型研修の開発を行うための「ワークショップ開発室」として、「カリキュラムマネジメント」「総合学習」「校内研修改善」「授業力向上」など８つの部屋（フォルダ）を開設し、各部屋に担当責任者を置き、情報交換と整理のファシリテートを行った。その後、フォルダの変更が行われ、最終年度では「概論」「集合研」「校内研（小）」「校内研（中高等）」「Ｑ＆Ａ」「研修パック」など 11 個の部屋に整理している。

（3）21 年度は部屋の一つである「ワークショップ型校内研修のＱ＆Ａ」において、校内研修の課題を収集し、協議を重ね最終的に 30 項目に整理した。その後、各項目に関する継続的な情報提供と研究協議を通して、各項目に対しての解決策を整理した。データベースの構築に向けての共同開発の素地ができあがった。この成果は、『「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる　学校を変える』（村川雅弘編、教育開発研究所、2010 年）の第 3 章 25 項目(pp.79-98）に反映されている。

（4）生徒指導及び低学力の問題を短期間で解決した東京都東村山市大岱小学校の教育活動をカリキュラムマネジメント・モデルにより分析し、ワークショップ型研修のカリキュラムマネジメントにおける位置づけの明確化を図った。この成果は、『学びを起こす授業改革』（村川雅弘・田村知子・東村山市立大岱小学校編、教育開発研究所、2011 年）の第 2 部第 8 章「大岱小の校内研究の特色」(pp.141-148)及び第 3 部第 4 章「大岱小のカリキュラムマネジメントの全体像」(pp.185-191)に反映されている。また、国際学会で発表し、諸外国の研究者より貴重な意見を得ることができた。

（5）小学校外国語活動のカリキュラムづくりや授業づくり等に関するワークショップ型研修をカリキュラムマネジメント・モデルに従って開発し、各研修がカリキャラムマネジメントにおいてどのような役割・機能を持つのかを明確化した。この成果は、『小学校外国語活動のための校内研修パーフェクトガイド』（村川雅弘・池田勝久編、教育開発研究所、2010 年）に反映されている。

（6）本システムを活用して研究協力者を中心に、蓄積された知見や情報に新たなものを付加・再構成し、『「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる 学校を変える』（村川雅弘編、教育開発研究所、2010 年）及び『「ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略＆プラン 43』（村川雅弘編、教育開発研究所、2012 年）という書籍にまとめた。編集会議及び情報提供、意見交換は一部このシステムを介して行った。

（7）ワークショップ型の研修を支援するための研修マニュアル・研修パックを教育センター(山形県(http://www.yamagata-c.ed.jp/)や大阪市(http://www.ocec.jp/center/)、紀の川市(http://www.city.kinokawa.lg.jp/)など)と協同的に作成し、一部の研修において試行・改善を行った。また、成果物は各センターのサイトより公開されている(大阪市は予定)。山形県の事例については，国際学会で発表し，諸外国の研究者より貴重な意見を得ることができた。

（8）兵庫県たつの市立小宅小学校や高知県香南市立吉川小学校など、総合的な学習の時間の充実に関して一定の効果を上げている学校のワークショップ型校内研修を，カリキュラムマネジメント・モデルにより分析・整理し、ワークショップ型研修の開発手法の整理と研修を支えるマネジメントの体系化及び校内研修の計画・実施を支援するための研究マニュアル・研修パックの開発を行った。この研究の一部はパナソニック教育財団の平成 22 年度の先導的実践研究助成を受けた。成果物は本財団のホームページ（http://www.pef.or.jp/）の「お役立ちコンテンツ」の「総合的な学習の時間のカリキャラムマネジメントのワークショップ型研修ガイド」として公開されている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南１　校内研修の方向性をみんなで考えよう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 4 号、2011、44-45。
②村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 2 子どもたちと地域の実態の共通理解を図ろう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 5 号、2011、44-45。
③村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 3 新学習指導要領が目指す授業を構想しよう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 4 号、2011、44-45。
④村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 4 ワークショップで授業研究（事後）を活性化しよう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 7 号、

2011、44-45。
⑤村川雅弘、ワークショップ型研修の質的向上を目指して、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 8 号、2011、12-15。
⑥田村知子、校内研修のマネジメントでワークショップの質向上を、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 8 号、2011、26-27。
⑦村川雅弘、地域をあげてワークショップを、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 8 号、2011、28-29。
⑧村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 5 使い勝手のよい魅力ある学習環境を作ろう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 8 号、2011、44-45。
⑨村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 6 特色ある教育活動を形成的に見直そう、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 9 号、2011、44-45。
⑩村川雅弘、ワークショップで学び合おうワークショップ型校内研修指南 7 ディスプレイ型ワークショップで手法を伝える、悠＋、ぎょうせい、査読無、第 28 巻 10 号、2011、44-45。
⑪村川雅弘、「ワークショップ型校内研修」をどう進めるか、教職研修、教育開発研究所、査読無、第 459 号、2010、34-37。
⑫藤原伸彦、学部生対象の授業における遊誘財データベースの活用、鳴門教育大学附属幼稚園研究紀要、査読無、第 44 号、2010、138-143。
⑬田村知子、新学習指導要領実施に向けてのカリキュラムマネジメント、月間高校教育、学事出版、査読無、7 月号、2009、34-37。

〔学会発表〕（計 11 件）
①Masahiro Murakawa、Development of the Teaching Abilities of Younger Teachers through 'Workshop-style lesson studies'、The World Association of Lesson Studies 2011、東京大学、2011 年 11 月 26 日。
②村川雅弘・高野浩男・田村知子、新学習指導要領が求められている授業づくりを支援する学校・教育センター・大学の連携による『授業研究ハンドブック』の開発、日本カリキュラム学会、北海道大学、2011 年 7 月 17 日。
③Masahiro Murakawa・Tomoko Tamura、Effects of “Workshop-style lesson study” and the management to facilitate lesson study for teachers'、The World Association of Lesson Studies 2010、Universiti Brunei Darussalam、Brunei 、2010 年 12 月 10 日。
④Masahiro Murakawa、Impact of Lesson Studies conducted out of School on Professional Development of Teachers、The World Association of Lesson Studies 2010、Universiti Brunei Darussalam、Brunei 、2010 年 12 月 9 日。
⑤村川雅弘、ワークショップ型校内授業研究の活性化のための教育センターの支援、日本教育工学会、金城学院大学、2010 年 9 月 18 日。
⑥村川雅弘、総合的な学習のカリキュラム評価ワークショップの開発、日本カリキュラム学会、佐賀大学、2010 年 7 月 3・4 日。
⑦村川雅弘、カリキュラム・マネジメントに関する研修プログラムの開発、日本カリキュラム学会、佐賀大学、2010 年 7 月 3 日。
⑧村川雅弘・田村知子、ワークショップ型教員研修の開発手法の体系化のためのカリキュラムマネジメント、日本教育工学会、東京大学、2009 年 9 月 21 日。
⑨藤原伸彦、教育実習生の授業実践の省察を支援する CMS を利用した映像データベースの開発、日本教育工学会、東京大学、2009 年 9 月 20 日。
⑩田村知子・中村武弘、カリキュラムマネジメントに関する教員研修の一考察、日本カリキュラム学会、千葉大学、2009 年 7 月 12 日。
⑪村川雅弘、新学習指導要領を踏まえた授業開発ワークショップ、日本カリキュラム学会、千葉大学、2009 年 7 月 11 日。

〔図書〕（計 7 件）
①村川雅弘編著、教育開発研究所、「ワークショップ型校内研修」の充実化・活性化のための戦略・プラン 43、2012、総 236。
②村川雅弘・田村知子・東村山市立大岱小学校編著、ぎょうせい、学びを起こす授業改革、2011、総 193。
③田村知子編著、ぎょうせい、実践・カリキュラムマネジメント、2011、総 195。
④村川雅弘・池田勝久編著、教育開発研究所、小学校外国語活動のための校内研修パーフェクトガイド、2010、総 210。
⑤村川雅弘編著，教育開発研究所、「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる学校を変える、2010、総 207。
⑥藤原伸彦、Web を利用した省察の支援ー授業実践映像データベースの開発と評価ー. 協同出版、鳴門教育大学特色 GP プロジェクト編、教育実践の省察力を持つ教員の養成ー授業実践力に結びつけることができる教員養成コア・カリキュラムー, 2010、216-234。
⑦田村知子、日本文教出版、“総合的な学習”のカリキュラム・マネジメント、村川雅弘・黒上晴夫・鈴木亮太編著、教育開発研究所、中学校・総合的な学習ビジュアル解説 27、2009、142-143。

〔その他〕
ホームページ等

村川雅弘(http://www.sougou.net/)
田村知子
(http://www.nakamura-u.ac.jp/~totamura/index.html)

６．研究組織
(1)研究代表者
村川　雅弘（MURAKAWA MASAHIRO）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：50167681

(2)研究分担者
藤原　伸彦（FUJIHARA NOBUHIKO）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：60333564
田村　知子（TAMURA TOMOKO）
中村学園大学・栄養科学部・講師
研究者番号：90435107

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：